

緑化だより

No.147 平成31年3月号



ヒマラヤシダ(若い球果)

- 季節の花(ミツマタ)
- 昆虫の話(チョウ界のひねくれもの)
- 小さな世界こけ(身近なコケ(2))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

riyoka 緑化の未来

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



季節の花

ミツマタ

「春されば まずさきくさの 幸(さき)くあらば 後にも逢はむ

な恋ひそ我妹(わぎも)」

柿本人麻呂 万葉集 卷10:1895

これを訳しますと

(春になると、まず咲く 三枝(さきくさ)。その言葉のように「幸(さき)く無事」であつたら、必ずまた会えるでしょう。だから、そんなに恋焦がれて苦しまないでください。愛しい人よ)

「サキクサ」という植物が何であるかは諸説がありますが、文学ではミツマタという説が有力です。しかし、植物学では、ミツマタの原産地はネパール、ブータンなどのヒマラヤ地方で、中国を経由して、室町時代に日本へ来たといわれています。すると万葉集にある山上憶良や柿本人麻呂の歌二種の「さきくさ」が本当のミツマタであつたか疑問ですが、ここでは「さきくさ」はミツマタとします。

ミツマタは、ジンチョウゲ科ミツマタ属の落葉低木で、室町時代に渡来しました。枝がつぎつぎに、三つに枝分かれしていくことから「三枝」「三又」と書きます。春を告げるように、他の花より一足先に淡い黄色の花が咲くので「さきくさ」といわれるようになりました。また花が美しいので花木としても栽培され、花の大きい園芸品種や赤い花(赤花三又)も見られます。



ミツマタの花

ミツマタはガンピに近縁で、樹皮の繊維が非常に強く、江戸時代にはすでに和紙の原料として重要な存在となっていました。

コウゾ、ガンピと共に和紙の三大原料の一つですが、ガンピは自生が少なく、また栽培が難しいので、大量に和紙を作ることが困難でした。一方、ミツマタは栽培が容易で、大量に材料を得ることができたため、ミツマタから作った和紙は、紙幣や賞状に使われることが多くなりました。高品質で世界的にも有名な日本の紙幣は、明治時代に和紙の伝統を受け継いで作られるようになりました。

栽培は、中国、四国地方の山地で行われています。特に岡山県北部の山地斜面で大量に栽培されていますが、栽培農家や和紙製造の職人の後継者不足で、日本特産の和紙は危機的状況にあります。かつての栽培地も野生化しているところが多くあります。(上村)

昆虫の話

チョウ界のひねくれもの

冬の厳しい寒さは緩むものの、木々の新芽は硬く、本格的な春の訪れが待ち遠しいこの季節。まだまだ葉のないエノキにやってくるチョウがいます。それは「ヒオドシチョウ」です。

ヒオドシチョウはオレンジ色の美しい翅を、戦国武将が身に着けていた豪華な緋緘(ひおどし)の甲冑に例えた事が名前の由来だといわれています。3月と6~7月頃に、公園などのエノキで見られます。身近なチョウですが、実は変わった生活環を持っているのです。

彼らが3月頃エノキを訪れるのは産卵のためです。彼らは新芽が開く前にエノキの枝先に大量の卵を固めて産みつけます。卵は新芽が開いてからふ化し、産まれた幼虫は集団でエノキの葉を食べます。多数の幼虫に食べ尽くされて枝から葉っぱが無くなってしまふので幼虫を見つけるのは簡単です。幼虫は成長し大きくなると集団からはなれ、5月頃に枝にぶら下がってさなぎになります。そして、6月頃に美しい成虫が現れるのです。彼らは日のよく当たる場所で翅を広げる習性があり、まるで美しい模様を見せびらかしているようです。



産卵するヒオドシチョウ



枝先に産み付けられた卵の塊



翅を開いて止まるヒオドシチョウ

多くのチョウは羽化するとすぐに次の世代を残します。けれども、彼らは夏になると涼しい雑木林の中へ移動し、そこで夏眠をして過ごします。そのまま秋をこえて、冬まで成虫のままじっと耐え忍ぶのです。そして、厳しい自然の中で夏～冬を過ごして、ボロボロになった成虫が3月に卵を産みにエノキへと帰ってくるのです。

なぜエサの多い夏に卵を産まないで寝て過ごすのか、なぜ秋ではなく冬のおわりに卵を産むのか、彼らの生き方には疑問がいっぱい湧いてきます。何か彼らなりの理由があるのでしょうか。しかし、卵やさなぎで越冬し、一年に数回も世代交代する他のチョウたちと比べると、彼らは成虫越冬で一年に一世代だけという、僕にはまったく合理的に思えない生き方をする「ひねくれもの」のチョウなのです。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)

小さな世界こけ

身近なコケ(2)

庭や公園、散歩中の道路脇などでも観察できるコケがあります。

タイ類ではゼニゴケ、ジャゴケがよく知られていますが、今回はミカヅキゼニゴケ、ジンガサゴケを紹介します。

ミカヅキゼニゴケは、庭や畑の片隅などで見られることがあります。ゼニゴケに似た、幅5~10mmの葉状体で、葉状体の先に三日月形の無性芽器をつけます。この無性芽器の形が名前の由来です。無性芽器の中の、丸い無性芽がこぼれ落ちて株を増やします。胞子で増えるのは稀で、約30年前初めて、胞子体が兵庫県や広島で見つかりました。



ミカヅキゼニゴケの無性芽器

昭和初期に入ってきたヨーロッパ原産の帰化植物です。

ジンガサゴケは、石垣や湿った土上などで見られます。ゼニゴケに似た、幅5~7mm、長さ4cmくらいの葉状体で、葉の表面は緑色ですが、縁と裏面が赤紫色を帯びています。



ジンガサゴケの雌器托

早春、雌株の葉先にできた雌器托は、4月頃、浅く割れた陣笠のような形になり、下に黒い蒴をつけます(山根)



ジンガサゴケ 雌器托裏の蒴

研修会のご案内

- 3月9日(土)『**さくら あれこれ**』
桜の歴史や管理方法について学ぼう
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：樹木医 正本 大
- 3月13日(水)『**コケの観察会**』
ルーペでコケを観察してみよう
※自由参加・無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授 関 太郎
- 3月15日(金)『**果樹の手入れ(春)**』(臨時開催)
春の手入れを学ぼう
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師：元県立農業技術センター果樹研究部 三原分室室長 石井 實
- 3月17日(日)『**3月の自然探勝**』
人肌も樹肌も同じ息遣い
※自由参加・無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：NHK 広島文化センター アシスタント 上村 恭子
- 3月23日(土)『**早春のバードウォッチング**』
早春の野鳥を観察しよう
※自由参加・無料、双眼鏡持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：日本鳥類保護連盟会員 吉見 良一
- 3月25日(月)『**早春の写真教室**』
早春の花を撮ろう
※要予約(先着20名)、無料、カメラ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員 宗岡 泰昭

◎ 展示会

場所:レストハウス

(パネル展示)

・緑化ポスター原画コンクール入賞作品展

～ 3月10日(日)

場所:学習展示館

・緑化センターの桜写真展 3月15日(金)～ 4月21日(日)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

・さくら祭り 3月23日(土)～4月21日(日)

さくらクイズに答えて景品ゲット

期間中、早咲から遅咲きのサクラ約50種類が楽しめます。

・さくら祭りお楽しみイベント (レストハウス前広場)

4月7日(日) 10:00～15:00

さくらクイズラリー、木工クラフト、わなげ・ミニグラウンドゴルフ

ノルディックウォーキング、ネイチャーゲーム、

フリーマーケット、草花販売など



緑化ポスター原画コンクール入賞作品展より



さくら祭り

～ 森林公園・こんちゅう館

臨時休園のお知らせ ～

7月の西日本豪雨のため、当分の間
臨時休園します。

ご迷惑をおかけしますが、

ご理解とご協力をお願いいたします。